

[別紙 - 1] 概要文

国営沖縄記念公園におけるユニバーサルデザインへの対応

国営沖縄記念公園事務所 建設専門官 比嘉 浩
工務課 山入端浩之

1. 目的

国営沖縄記念公園（海洋博覧会地区・首里城地区）は、毎年の入園者が600万人を超え、沖縄観光の中核施設となっている。沖縄経済のためにも当公園の果たすべき役割は大きく、これからもより多くの観光客・県民に利用してもらうために、公園の抱える問題を検証し、施設整備や管理運営において様々な取り組みを実施する。

2. 内容

現在当公園は、来園者の混雑緩和、公園施設の平準利用化、公園アクセス向上などの問題に対する取り組みを行っているが、その中でも下記の問題への対策が急務となっている。そのため、これらの問題を解決するための施策を検討する。

(1) 園内の移動の問題

海洋博覧会地区は広大でかつ東西に高低差がある地形のため、障害者も含めた来園者が施設間を移動する際の負担となっている。また首里城地区は復元建物であるため、施設の形状に制約があり、内部での階の移動は階段だけで運用している状態にある。

(2) 多彩な来園者への対応

視聴覚に障害のある方、また日本語に不慣れな外国人観光客も多く来園するため、一般来園者向けの対応だけでは不十分である。

3. 結論

これら問題に対し、園内のユニバーサルデザインへの対応を進めることで問題の解決を図った。

(1) 園内の移動対策

海洋博覧会地区で行った施策として、園内を車椅子でも移動できるように園路の緩勾配化とリフト付き中型遊覧車の導入を行った。また、来園者が階段や坂道の移動で負担にならないように屋外エスカレーターと動く歩道を設置した。

首里城地区においては、全ての来園者が正殿内部の2階部分まで見学できるように車椅子用昇降機を設置した。

(2) 多彩な来園者への対応策

視聴覚に障害がある方への情報提供の手段として、点字音声ガイドを整備し、パンフレットやバリアフリー対応ホームページなどの文字情報の充実化もあわせて行った。

また、外国人観光客への情報提供として、園内サイン・パンフレット・ホームページの多国語対応を実施した。

4. 今後の問題点

当公園は年々来園者数が増えている状況であるが、来園者の増加に伴って公園を利用する人々も多様化していくと考えられる。そのため、これら施策の効果と問題点・課題点を検証し今後の整備・管理運営について検討する必要がある。